

平成 29 (2017) 年度

(1 年次用)

# 講義概要

東北大学文学部

# 1年次開講科目一覧

## 基礎専門科目（入門）

授業科目	講義題目	単位	担当教員名				開講 セメスター	曜日	講時	頁	
			氏名	氏名	氏名	氏名					
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	芳佐横黒	賀藤溝岩	京弘	子夫博卓	1	水・金	5・4	2	
人文社会序論	行動科学で解き明かす社会	2	浜佐	田藤	嘉	宏倫	1	月	4	2	
人文社会序論	2セメスターからのフランス語	2	黒岩			卓	2	火	2	3	
人文社会序論	『三国志』研究入門	2	川合			安	2	火	2	3	
人文社会序論	留学のすすめ	2	沼崎			一郎	2	火	2	4	
人文社会序論	哲学・倫理入門前——自分で考えるために	2	荻原			理	2	水	5	4	
人文社会序論	宗教学入門	2	木村			敏明	2	木	2	5	
人文社会序論	文化人類学序論	2	川口			幸大	2	金	4	5	
英語原書講読入門	英語文献による人文社会入門	2	浅後戸山直佐川阿	岡藤島田江藤口	善貴仁清嘉幸	治代史隆倫大香	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	2	水・金	3・3	6

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 総 論 General Introduction to Humanities and Social Sciences	4	教授 佐藤 弘夫・芳賀 京子 准教授 横溝 博・黒岩 卓	1	水・金	5・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS201J				
◆ 授業題目	人文社会科学の世界 (World of Humanities and Social Sciences)				
◆ 目的・概要	この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1セメスターに必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の25すべての専修が各1回講義を担当します。文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。受講するうえで不明な点等ありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。				
◆ 到達目標	文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ことばの普遍性と多様性：日本語と英語の比較から外から見た日本語</li> <li>3. 日本美術の世界 東洋史の世界</li> <li>4. 遊ぶこと ヨーロッパ史の世界</li> <li>5. 文化人類学の考え方 物語はなぜ面白いのか (メディア横断的に考える)</li> <li>6. 自由意志とは何か—近代哲学史から考える— 心理学の世界</li> <li>7. 宗教学の世界 武士と騎士—日本における中世フランス文学研究について—</li> <li>8. 古代ギリシア・ローマ美術の見方 王朝文芸の世界</li> <li>9. ゆるキャラの逆襲 大学で学ぶ日本史</li> <li>10. 国語学の世界 現代家族の社会学</li> <li>11. 中国文学の挑戦 道家思想と道教の世界</li> <li>12. 遺跡から過去の世界を探る—考古学への招待— 言語学の世界</li> <li>13. 行動科学でみる社会—ベルヌーイ・コア理論— 英語の詩を読んでみよう</li> <li>14. インド仏教研究と河口慧海 一文献研究を通じた仏教理解への眼差し—</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	レポートと出席とを総合して評価します (比重の目安は、レポート60%、出席40%)。				
◇ 教科書・参考書	テキスト：『人文科学ハンドブック』(東北大学出版会)。 参考書：『人文社会科学の新世紀 (改訂新版)』(東北大学出版会)。その他、各授業で随時紹介します。				
◇ 授業時間外学習	講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりにして、自分で調べて、レポートを書く準備をしてください。				
その他：各自教科書・参考書を購入し、第1回の授業時に必ず持参してください。また、最後の授業で専修志望予備調査を実施しますので、必ず出席してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 浜 田 宏 倫 佐 藤 嘉 倫	1	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	行動科学で解き明かす社会 (Introduction to Behavioral Science)				
◆ 目的・概要	行動科学の基本的な考え方を身に付けて、私たちが生きているこの社会のことをよりよく、またより深く理解できるようにする。				
◆ 到達目標	行動科学のベースとなる、社会学理論、経済学理論を理解する。また、紹介した理論を適用して、現実社会におけるどのような現象が説明可能かを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 「買ったものは使わないと損」は合理的か？ 自制心とメンタルアカウンティング</li> <li>3. 「試合の流れ」は本当に存在するのか？ 認知とヒューリスティック</li> <li>4. 人は利他性を持っているのか？ 不平等回避と間接的互惠性</li> <li>5. 期待効用仮説は正しいのか？ リスクと限界効用逓減法則</li> <li>6. なぜ人は現状維持したがるのか？ プロスペクト理論</li> <li>7. なぜ先延ばしをしてしまうのか？ 時間割引率</li> <li>8. どうしたら運命の人とめぐりあえるのか？ 「恋愛」の確率モデル</li> <li>9. 出身階層によって大学進学率が異なるのはなぜか？</li> <li>10. 交互作用とはなにか？</li> <li>11. なぜマスメディアはトランプ氏の当選を予測できなかったのか？</li> <li>12. なぜ新卒一括採用は存続しているのか？</li> <li>13. なぜ経済成長が人々の満足度につながらないのか？ 幸福のパラドックス</li> <li>14. なぜ人は他人を信頼するのか？</li> <li>15. 総括</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	出席 (40%)、レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜資料を配付する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で紹介する文献を読み、復習すること。				
その他：トピックに応じて、授業内で受講者同士で議論する時間を設ける。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 黒 岩 卓	2	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	2セメスターからのフランス語 (Elementary French)				
◆ 目的・概要	ゼロからフランス語の基礎を学びます。つまり、第一セメスターでフランス語を学んでいない、完全な初心者を対象とします。もちろん、フランス語を既に学んだことのある人、あるいは学びつつある人が、復習ややり直しのために参加することも可能です。				
◆ 到達目標	フランス語文法の基礎を一通り学びます。				
◆ 授業内容・方法	1. (以下、教科書の進度を示します。目安ですので実際には変動があり得ます) Leçon 0 2. Leçon 1 および Leçon 2 3. Leçon 3 および Leçon 4 4. Leçon 5 および Leçon 6 5. Leçon 7 および Leçon 8 6. Leçon 9 および Leçon 10 7. Leçon 11 8. Leçon 12 9. Leçon 13 および Leçon 14 10. Leçon 15 11. Leçon 16 12. Leçon 17 13. Leçon 18 14. Leçon 19 15. Leçon 20				
◇ 成績評価の方法	出席回数および出席時の授業参加によって評価します。				
◇ 教科書・参考書	石上亜紀子、加藤豊子、富田正二、中川高行、西村美穂著『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法―』、朝日出版社、2007年。				
◇ 授業時間外学習	少ない授業時間でフランス語文法を一通り概観します。かなりの進度で進みますので、授業時間以外の学習が極めて重要になります。予習の有無が成績評価に直結しますので、強い意志をもって授業に参加してください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 川 合 安	2	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	『三国志』研究入門 (SANGUOZHI (Reading))				
◆ 目的・概要	東洋史の中でも、特に中国前近代史の場合、漢文で書かれた史料（歴史書や文書など）を読むことが必須である。本講義では、単に従来知られている歴史事実を記憶するのではなく、自ら史料を読むことを通じて歴史を探究することを体験してもらうことを目的とする。歴史書『三国志』を素材として、それを読む際に必要な基礎知識を学んだ上で、実際に『三国志』を原文で読んでみる。				
◆ 到達目標	自ら史料を読むことを通じて歴史を探究することを体験し、その初歩的方法を体得する。				
◆ 授業内容・方法	1. はじめに：中国史における三国時代 2. 陳寿『三国志』の概要 3. 『三国志』を原文で読むための基礎知識 (1) 4. 『三国志』を原文で読むための基礎知識 (2) 5. 『三国志』を原文で読むための基礎知識 (3) 6. 曹操の登場 6回目以降は、前の回の授業で配布した資料をもとに発表したり討議したりする時間を設ける。 7. 孫堅の登場 8. 劉備の登場 9. 官渡の戦い 10. 赤壁の戦い 11. 劉備の入蜀 12. 魏王朝の成立 13. 蜀王朝の成立 14. 呉王朝の成立 15. おわりに：講義の総括				
◇ 成績評価の方法	出席50%、授業中の発表や討議の内容50%。				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：渡邊義浩著・三国志学会監修『三国志研究入門』（日外アソシエーツ株式会社、2007年）				
◇ 授業時間外学習	配布資料を読み、授業内容を復習していただきたい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教 授 沼 崎 一 郎	2	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	留学のすすめ (Let's Study Abroad)				
◆ 目的・概要	留学の魅力を紹介し、留学への意欲を掻き立てるとともに、留学準備の進め方を指導する。セメスターの前半は、世界各地に留学した体験を持つ文学部生の体験談を聞き、質疑応答を通して、留学の実情を知ってもらうことを中心とする。後半は、留学手続きの進め方、特に東北大学の交換留学制度の使い方を説明し、交換留学の志望動機書と学習・研究計画書の書き方を指導する。また、語学学習についても、アドバイスを提供する。				
◆ 到達目標	(1)留学に興味を持つ。 (2)留学手続きの知識を得る。 (3)留学計画を立ててみる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 授業法の説明</li> <li>2. 東北大学の交換留学制度の概要</li> <li>3. 長期留学体験者による実際の体験談紹介 (1) アメリカ</li> <li>4. 長期留学体験者による実際の体験談紹介 (2) ヨーロッパ</li> <li>5. 長期留学体験者による実際の体験談紹介 (3) 中国・台湾・韓国</li> <li>6. 長期留学体験者による実際の体験談紹介 (4) その他地域</li> <li>7. 短期留学 (SAP)、短期語学研修などの体験者による実際の体験談紹介</li> <li>8. 留学に必要な申請書類の書き方 (1) 概要</li> <li>9. 留学に必要な申請書類の書き方 (2) 志望動機書の書き方</li> <li>10. 留学に必要な申請書類の書き方 (3) 学習・研究計画書の書き方</li> <li>11. 留学に必要な推薦状 (1) 具体例の紹介</li> <li>12. 留学に必要な推薦状 (2) 依頼の仕方</li> <li>13. 留学に必要な語学力および語学力テストの説明</li> <li>14. 留学に必要な語学力のつけ方</li> <li>15. 総括</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	毎回のリアクションペーパー (50%) と、交換留学申請書の作成 (50%) による。				
◇ 教科書・参考書	適宜、教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	海外の大学について、ホームページを見るなどして、実際にリサーチする。交換留学申請書の下書を作成する。自分の推薦状を自分で書いてみる。				
その他：留学に興味のある人はもちろん、留学に興味のない人もぜひ受講して欲しい。 実際に留学した経験のある先輩の話聞くことで、留学について具体的なイメージを持つことができるようになるだろう。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 荻 原 理	2	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	哲学・倫理入門前——自分で考えるために (Introduction to Philosophy)				
◆ 目的・概要	哲学専修または倫理学専修への進学を考えている文学部1年生の方が主な対象です (下の「その他」参照)。哲学的な議論・思考にふれて、自らやってみて、なじんでいってもらうことが目的です。クラス内でのディスカッション、および、教員のコメントが中心です。ただし、人前で話すのが苦手な方は、授業外にTAや教員にメールを送るなどの形でディスカッションに参加してくれて結構です。皮切りのテーマは教員が準備しますが、その後の話題は成り行き次第です。授業中に短いプレゼンテーションをするか、期末レポートを提出するかしてもらいます。プレゼンやレポートのやりかたやテーマは教員かTAと相談して、追い追い決めていきます。プレゼンまたはレポート提出の前に、TAのアドバイスを受けてもらいます。				
◆ 到達目標	哲学のトピックをめぐって思考できるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【以下の予定には変更があり得ます。】 ガイダンス</li> <li>2. 現代倫理学のトピック (1)</li> <li>3. 現代倫理学のトピック (2)</li> <li>4. 現代倫理学のトピック (3)</li> <li>5. 現代倫理学のトピック (4)</li> <li>6. トピックを探しながら自由に論じよう (1)</li> <li>7. トピックを探しながら自由に論じよう (2)</li> <li>8. トピックを探しながら自由に論じよう (3)</li> <li>9. トピックを探しながら自由に論じよう (4)</li> <li>10. 知るとは何かについての哲学対話 (1)</li> <li>11. 知るとは何かについての哲学対話 (2)</li> <li>12. 知るとは何かについての哲学対話 (3)</li> <li>13. 知るとは何かについての哲学対話 (4)</li> <li>14. まとめ (1)</li> <li>15. まとめ (2)</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	プレゼンテーションまたは学期末レポート：60%、出席：30%、授業中 (またはメール) のパフォーマンス：10%				
◇ 教科書・参考書	教科書：直江清隆編『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 1——人間を理解する』(岩波書店、2016年) (『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 2——社会を考える』(岩波書店、2016年)も参考図書に挙げておきます。) 適宜プリントを配布します。				
◇ 授業時間外学習	授業中のディスカッションをめぐって考えたり、予告されたテーマについて考えたりし、次回の授業での発言を準備する (またはTAや教員にメールする)。				
その他：哲学専修・倫理学専修への進学を考えている学生さんはなるべく履修してください。 他学部の学生さんは、履修登録前に、担当教員に相談してください (授業初回などに直接会って話すのでも、電子メールでも)。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 木 村 敏 明	2	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	宗教学入門 (Introduction to the Religious Studies)				
◆ 目的・概要	<p>本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。</li> <li>2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。</li> <li>3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。</li> </ol>				
◆ 到達目標	宗教学の基本的なものの見方について理解出来る。現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 講義と討論 1. 宗教と宗教学</li> <li>3. 講義と討論 2. 民間信仰</li> <li>4. 講義と討論 3. 現代における宗教</li> <li>5. 講義と討論 4. 宗教の社会貢献</li> <li>6. 新聞発表の準備.</li> <li>7. 新聞発表 1.</li> <li>8. 新聞発表 2.</li> <li>9. 新聞発表 3.</li> <li>10. 新聞発表 4.</li> <li>11. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い(神社調査準備)</li> <li>12. 活きた宗教に触れる 2. 神仏への願い(神社調査を予定)</li> <li>13. 活きた宗教に触れる 3. 日本におけるイスラーム(仙台マスジド代表による講演を予定)</li> <li>14. 活きた宗教に触れる 4. 宗教による社会貢献の新展開(臨床宗教師による講演を予定)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	授業中の発表、議論への参加状況。				
◇ 教科書・参考書	教科書：井上順孝、『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる宗教学』日本実業出版社				
◇ 授業時間外学習	発表の準備、授業内容の復習。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 川 口 幸 大	2	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS203J				
◆ 授業題目	文化人類学序論 (Introduction to Cultural Anthropology)				
◆ 目的・概要	<p>文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。この授業は文化人類学の入門である。文化人類学の基礎的な知識を学び、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。</p> <p>授業は大きく分けて、①文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、②フィールドワーク体験、③民族誌の講読、④レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。</p>				
◆ 到達目標	文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：授業の概要</li> <li>2. 文化人類学の考え方 ① 家族・親族、社会関係、つながり</li> <li>3. 文化人類学の考え方 ② 結婚とは？</li> <li>4. 文化人類学の考え方 ③ 男／女を考える：性とジェンダー</li> <li>5. 文化人類学の考え方 ④ 世界をどう見るか、何を「信じる」か？：宗教</li> <li>6. 文化人類学の考え方 ⑤ 経済を人類学から考える：儲かることはよいことか？</li> <li>7. 文化人類学の考え方 ⑥ グローバルゼーション+ローカリゼーション＝？</li> <li>8. フィールドワークをしてみよう ① 非参与観察とインタビュー入門</li> <li>9. フィールドワークをしてみよう ② 公園での非参与観察報告会</li> <li>10. フィールドワークをしてみよう ③ インタビュー報告会</li> <li>11. 民族誌を読んでみよう ①</li> <li>12. 民族誌を読んでみよう ②</li> <li>13. レポートを構想する</li> <li>14. レポート構想発表会</li> <li>15. まとめ：文化人類学を学んで</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]、出席・討論参加 [20%]、最終レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂				
◇ 授業時間外学習	毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 原 書 講 読 入 門 Introduction to Academic Reading in English	2	教授 浅岡 善治(1)・後藤 齐(2)・戸島貴代志(3) 准教授 山田 仁史(4)・直江 清隆(5)・佐藤 嘉倫(6) 川口 幸大(7)・阿子島 香(8)	2	水・金	3・3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS202J																				
◆ 授業題目	英語文献による人文社会入門 (Introduction to Humanities through Reading English Documents)																				
◆ 目的・概要	本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。																				
◆ 到達目標	(1)英語原書文献の読解力が身につく。 (2)文献の批判的講読の仕方が身につく。 (3)理論的思考力が身につく。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (各教員の指示にしたがうこと)</td> <td>9. 英語原書の講読演習 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 英語原書の講読演習 (1)</td> <td>10. 英語原書の講読演習 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 英語原書の講読演習 (2)</td> <td>11. 英語原書の講読演習 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 英語原書の講読演習 (3)</td> <td>12. 英語原書の講読演習 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 英語原書の講読演習 (4)</td> <td>13. 英語原書の講読演習 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 英語原書の講読演習 (5)</td> <td>14. 英語原書の講読演習 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 英語原書の講読演習 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ (各教員の指示にしたがうこと)</td> </tr> <tr> <td>8. 英語原書の講読演習 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション (各教員の指示にしたがうこと)	9. 英語原書の講読演習 (8)	2. 英語原書の講読演習 (1)	10. 英語原書の講読演習 (9)	3. 英語原書の講読演習 (2)	11. 英語原書の講読演習 (10)	4. 英語原書の講読演習 (3)	12. 英語原書の講読演習 (11)	5. 英語原書の講読演習 (4)	13. 英語原書の講読演習 (12)	6. 英語原書の講読演習 (5)	14. 英語原書の講読演習 (13)	7. 英語原書の講読演習 (6)	15. 授業のまとめ (各教員の指示にしたがうこと)	8. 英語原書の講読演習 (7)	
1. イントロダクション (各教員の指示にしたがうこと)	9. 英語原書の講読演習 (8)																				
2. 英語原書の講読演習 (1)	10. 英語原書の講読演習 (9)																				
3. 英語原書の講読演習 (2)	11. 英語原書の講読演習 (10)																				
4. 英語原書の講読演習 (3)	12. 英語原書の講読演習 (11)																				
5. 英語原書の講読演習 (4)	13. 英語原書の講読演習 (12)																				
6. 英語原書の講読演習 (5)	14. 英語原書の講読演習 (13)																				
7. 英語原書の講読演習 (6)	15. 授業のまとめ (各教員の指示にしたがうこと)																				
8. 英語原書の講読演習 (7)																					
◇ 成績評価の方法	各担当教員が授業開始時に指示します。																				
◇ 教科書・参考書	各担当教員が授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	予習段階であらかじめ教材に目をとっておくこと。																				
その他：	1～4クラスは水曜日3校時 5～8クラスは金曜日3校時																				

英語原書講読入門授業紹介

<p>クラス1 水・3 担当 浅岡 善治</p> <p>ヨーロッパ史に関する初歩的文献を素材として、人文社会科学一般に関する入門的指導を行います。単にテキストを正確に訳出・理解するだけでなく、一定の区切りごとに論旨や論理構成の把握にも努めます。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリント形態で配布します。</p>
<p>クラス2 水・3 担当 後藤 斉</p> <p>言語の社会的な側面を扱った文章を題材として、学術的な英語の文章を正確に読み取るための英文解の訓練をします。英文法や辞書の使い方を復習しながら、単語や文を文脈の中での確に理解できるようになることが目標です。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>
<p>クラス3 水・3 担当 戸島貴代志</p> <p>ビル・ゲイツの“BUSINESS@THE SPEED OF THOUGHT”をゆっくり読みます。思考が脳細胞を伝わる速さで、グローバルに事業展開する企業の意思決定を行うことができる、これがゲイツの主張です。かくも「速さ」の重んじられる世界が、ある意味で逆説的に教えているものはないか、そういうことも同時に考えていきましょう。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>
<p>クラス4 水・3 担当 山田 仁史</p> <p>民族学者エドワード・ウェスターマルク（1862-1939）の古典的名著『人類婚姻史』から、婚姻儀礼の章を読みます。古今東西にわたる事例を採り上げながら、宗教的信仰や食文化、儀礼の社会的機能などが語られます。人類文化の多様性と共通性を感じながら、英文を丁寧に読んでいきましょう。</p> <p>テキスト：WESTERMARCK, Edward, The History of Human Marriage, 5th ed., Vol. 2, London: Macmillan, 1921 (Chapter 24: Marriage rites)。入手方法は授業開始時に指示します。</p>
<p>クラス5 金・3 担当 直江 清隆</p> <p>授業では英語の哲学入門文献をテキストに、英文を正確に読み、考える練習をします。前半は原文の語義や構文を忠実に押さえて論旨を把握する練習に当て、後半には英文の内容をもとに実際に哲学的（広い意味で）に考える作業を試みる予定です。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>
<p>クラス6 金・3 担当 佐藤 嘉倫</p> <p>行動科学の入門的な英語文献を輪読します。高校の教科書とは異なり、1つの考えをまとめた英語論文を読むことで、論文の読み方や論理的な思考の展開の仕方を身につけていきます。予習、復習を徹底することを期待します。</p> <p>テキスト：授業開始時に指示します。</p>
<p>クラス7 金・3 担当 川口 幸大</p> <p>日本の社会と文化について英語圏の研究者が記した文献を読みます。原書講読に親しむとともに、日本を相対化して考えてみてください。研究対象としての日本。読み進めるうちに抱くのは、共感でしょうか、違和感でしょうか？</p> <p>テキスト：Critical Issues in Contemporary Japan</p>
<p>クラス8 金・3 担当 阿子島 香</p> <p>人類の長い歴史のほとんどを占める先史時代に関する本を読むことを通じて、悠久の歴史の中における私たち人間について、一緒に考えてみたいと思います。米国の大学での初学者向けの参考書を使用する予定です。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>